

抜歯後即時埋入？待時埋入？ トラブルを回避する為のポイント

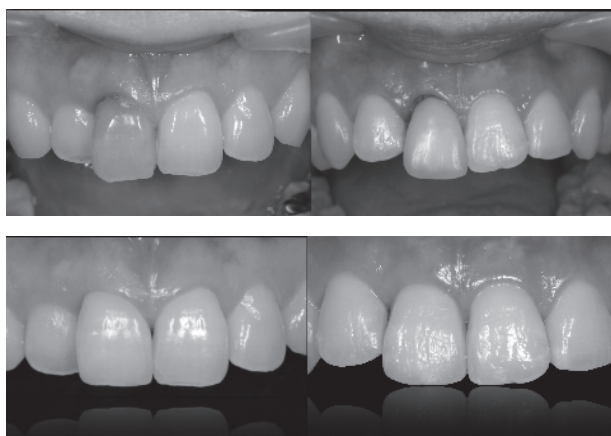
夏堀 礼二

夏堀デンタルクリニック



抜歯予定とされた部位にインプラント治療を希望する患者のニーズとしては、歯牙欠損期間ができるだけ短くすぐ噛める、抜歯即時埋入・即時加重が求められ、中にはそれを大義名分に保存可能歯を安易に抜歯し、施術する術者も多い。また保存不可能歯の抜歯即時埋入後の術後感染やインプラント脱落などのトラブルも起きているのが現状である。特に審美領域ではなおさら慎重に取り組むべきだと考えている。

一方で、審美領域の抜歯予定部位の状況による即時埋入・待時埋入の選択基準や術式も様々な臨床家から紹介され、適応症のクライテリアやガイドラインもほぼ成熟し、数多くの審美症例が報告されている。ここで90年代、00年代、10年代と私の拙い臨床経験から即時埋入・待時埋入を整理しながら、今回、抜歯即時埋入適応患者であるにもかかわらず、感染・脱落を経験し、今一度、待時埋入の安全性と確実性を再認識した。今回の講演を通じて、自分の失敗症例が若い歯科医の先生方の一助になればと思います。



略 歴

1986年 岩手医大歯学部 卒業
1992年 八戸市 開業

現在の所属スタディグループ 等

・3D アカデミー 前会長
・OJ 元会長
・NPC 副会長
・Club22 会員

現在の役職及び所属学会 等

・日本臨床歯周病学会
・日本補綴歯科学会
・日本デジタル歯科学会
・日本口腔インプラント学会 専門医
・日本顎咬合学会 認定医
・AAP
・AO
・EAO

memo